



今から70年近く前、一人の男がシベリアにいた。

捕虜の身だった。

これから国がどうなるかさえも分からなかった。

夢など抱けなかった。

しかし、それでも男は生きることを選じた。

極寒の地で苦しさを耐え忍んで何とか生き延びた。

生きてさえいれば、また良いことがあると信じた。

そして昭和24年、その男が日本に帰国した。

終戦直後の日本はまだ混沌としていた。

生きるために頼れるものなどなかった。自分がすべてだった。

「最初の力持ち」は日本の未来を考えた。

自分は何を持っているのか？何ができるのか？

自分の技術を最大限に活かして、社会に貢献する何かをできないか？

そして、力持ちは戦前、戦中を通して得た金属加工の技術を使い

工場のメンテナンスと蒸気ヒーターの製作を細々と始めた。

これが縁の下の力持ちの商いの原点となった。

それから仕事は安定し、やがて会社へと発展した。

気がつけば、日本中も元気になっていた。

男は休みもなく必死で働いた。

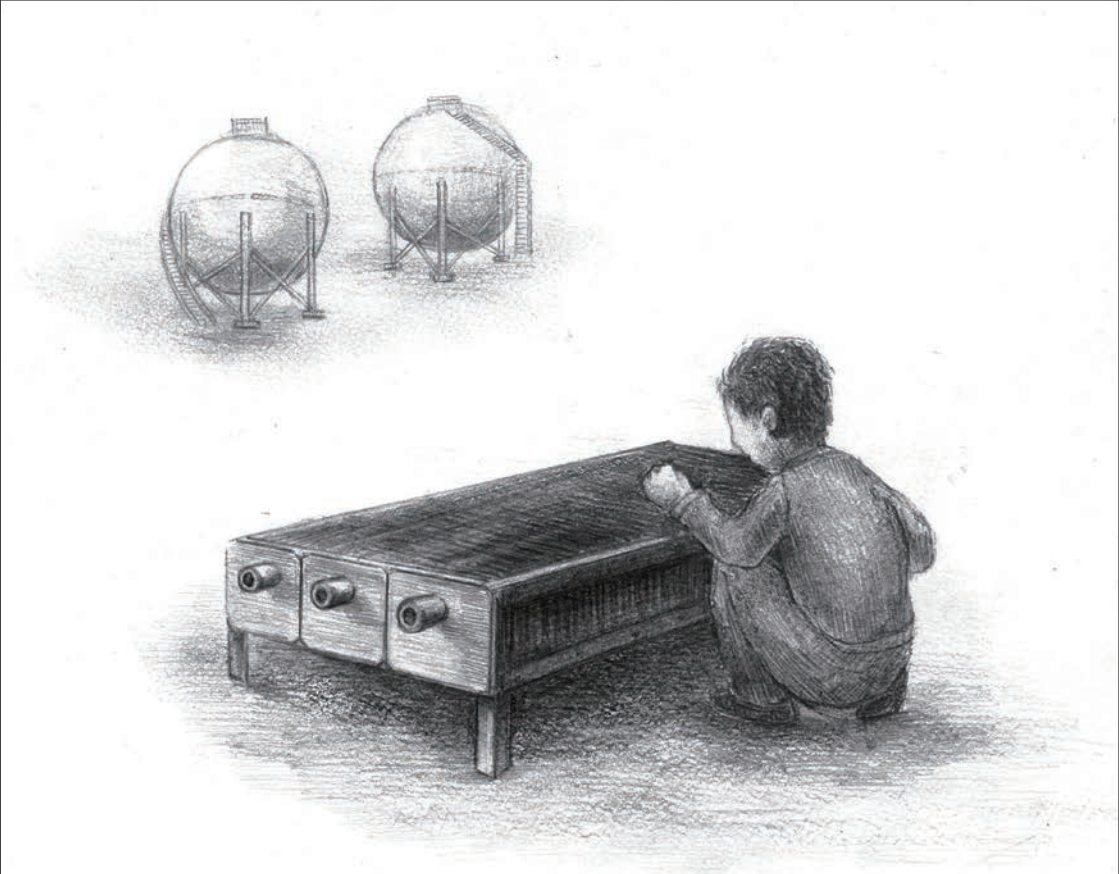
社会の役に立てることが何よりも幸せだった。

それから男の努力は“熱処理技術”として実を結び、

会社も大きくなった。

そして、たくさんの「縁の下の力持ち」たちの創意工夫で、

オンリーワンの技術がどんどん生まれていった。



工場メンテナンスと熱交換事業

東邦ガス工場メンテナンス事業と蒸気ヒーターが荒川製作所の創業の原点であり、創業以来60年間続く大切な仕事です。これが、現在のすべての事業の基礎となっています。



ある技術屋の力持ちは考えた。
「体にやさしく、さらに美味しいスナック菓子ができないか…」
その力持ちは試行錯誤を重ね、
ノンフライ製法の研究開発に成功した。

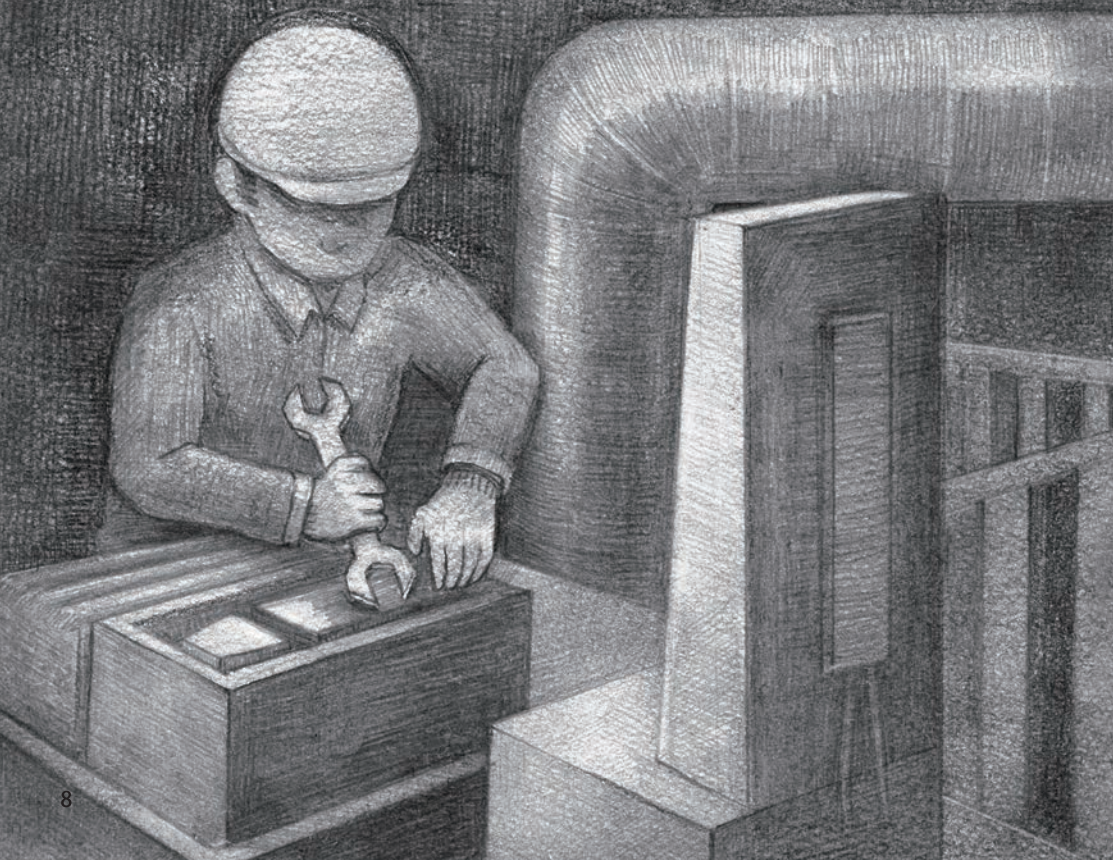


後に、その美味しい低カロリーのスナック菓子は、
日本中の子供達を笑顔にし、女性にも喜ばれた。

スナックノンフライ製法の開発

スナック菓子、シリアル食品向けノンフライ製法用オープン・トースター (THERMO ZONE) は、ジェットチューブ流動層テクノロジーとして多くの製菓メーカー、シリアルメーカーに納入されています。

「忙しい時でも簡単に食べられる、健康的なラーメンを作りたい」
そんな顧客の要望に応えようとしたある力持ちは、
ヘルメットをかぶった別の力持ちにアイデアを伝えた。
そしてその力持ちのがんばりで機械が完成した。



後に、ノンフライで健康なカップラーメンは、
多くの人達に必要とされた。

カップ麺ノンフライ製法の開発

インスタントラーメン向けノンフライ麺製法用ドライヤー (THERMO ZONE) は、ジェットチューブ インピ
ンジメントテクノロジーとして、多くのインスタントラーメンメーカーに納入されています。

あるマーケティング担当の力持ちが
喫茶店でコーヒーを飲みながらひらめいた。
「自分たちの技術を使えばコーヒー豆を速く煎れるし、
外からも見えるのできっと楽しい焙煎機になる」
早速、力持ちは商品を企画した。



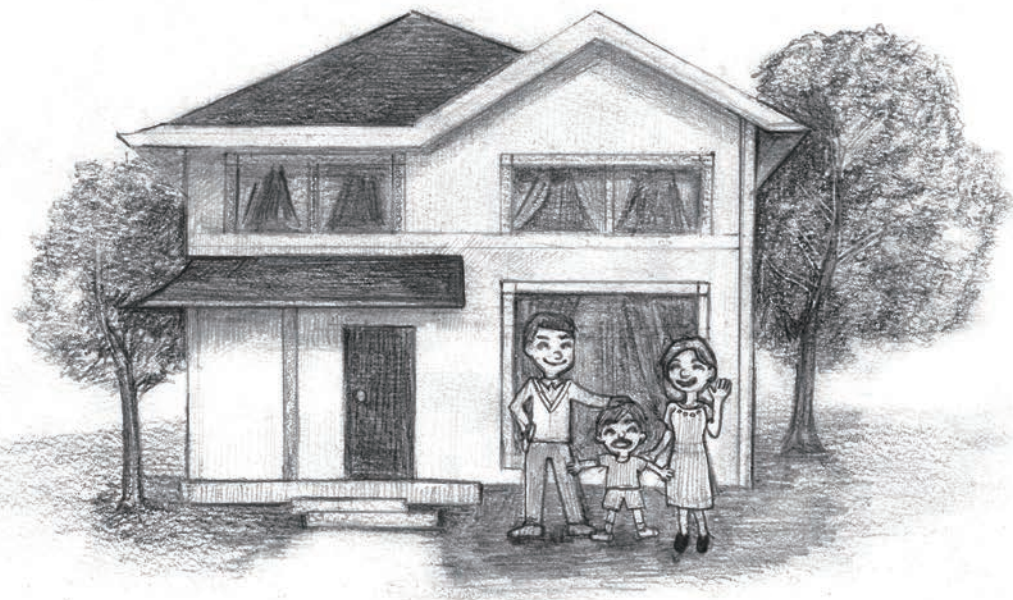
後に、一人ひとりに短時間でローストできて、
中が見えるコーヒー焙煎機が客も店も喜ばせた。

コーヒー焙煎機の開発

リテイルコーヒーショップ向け小型コーヒーロースター（JETROAST）は、高速熱風により短時間・均一焙煎を可能としました。国内外の多くのコーヒー豆挽き売り店にて使用されています。



日本の住宅工法の乾式化に伴い、
30年ほど前からサイディングボードという外壁材が普及した。
あるセールスマンの力持ちは、
そこに自分たちの乾燥技術が活かせないかと考えメーカーに提案した。
幾度も提案を重ね、ついに採用になった。



後に、品質が均一でコストが抑えられた
サイディングボードが日本中で使われるようになった。

建材用ドライヤーの開発

住宅資材・ハウスメーカー向け外装材(サイディングボード)向け基材・塗装乾燥用ドライヤー(THERMO ZONE)は、ジェットチューブ インピンジメントテクノロジーとして、多くの住宅建材・ハウスメーカーに納入されています。

こだわりの技術屋、
ヘルメットをかぶってこつこつ働く作業員、
アイデア豊かなマーケティング担当、
そして粘り強いセールスマン…
彼らは普段あまり注目されることはない。
だけど、世の中に喜ばれること、
企業に必要とされること、人々に愛されること、
そして仲間達と共感し合い共に研究開発し、
それを形にできることに誇りを感じている。
この会社は、そうした縁の下の力持ちの集まりだ。
一人ひとり熱意と創意が支えてきたのだ。



一人の男がシベリアから帰国し、
あっという間に60年もの年月が経っていた。
気がつけば、縁の下の力持ちがたくさんいる会社になっていた。
そして、その力持ち達が一生懸命開発した機械で作られた
様々なモノが世の中に出回り
人々の暮らしを豊かにしている。

極寒のシベリアでは想像も出来なかったことが
今現実になっている…

でも、男は言った
『60年じゃ満足できねえ。いくぞ100年!』と。

